

M5 ミニシンポジウム5 3日目(9月17日)

「創薬を目指した連携：オープンイノベーションの可能性」

開催趣旨

新薬の開発は研究開発費の増大、期間の長期化と近年益々困難になってきている。また創薬技術も一企業が個別に追求するには手に余るようになってきている。そこで創薬シードの探索や技術開発において外部のリソース、主にアカデミアやバイオベンチャーを利用する、あるいは自社で開発しなくなった薬剤を積極的に導出すること(オープンイノベーション)の重要性が世界的に認識されつつある。本シンポジウムでは創薬におけるオープンイノベーションの取り組みについて企業、アカデミアそれぞれの立場からご講演いただく。

座長：岡部隆義(東京大学) 松末朋和(持田製薬株式会社)

プログラム

M5-1: 14:00-14:40

「日本における医薬品研究開発の産学官連携の促進」
竹中登一(アステラス製薬)

M5-2: 14:40-15:10

「製薬企業におけるオープン・イノベーション 新しい産学連携の取り組み
- シオノギ創薬イノベーションコンペ(FINDS) -」
坂田恒昭(塩野義製薬(株) 医薬開発本部/大阪大学サイバーメディアセンター)

M5-3: 15:10-15:40

「イノベーション獲得に向けて - ロシュファーマのライセンス・提携戦略 -」
鈴木 香(ロシュ ファーマ・ジャパン)

<休憩>

M5-4: 16:00-16:30

「理研における創薬・医療技術基盤プログラムの推進について」
後藤俊男(理化学研究所 社会知創成事業 創薬・医療技術基盤プログラム)

M5-5: 16:30-17:10

“Bringing down the firewalls -Pre-competitive models for Pharma R&D informatics”
Michael R. Barnes(GlaxoSmithKline Medicines Research Centre)